

施工後、現場対応でリモコン相互干渉防止にする場合 ('15・'18ウォシュレット一体形 取替機能部(TCF906系)用)

1. 施工後の対応

万一、連立トイレに正規品のみを取り付けて誤作動した場合は、現場で特注品に切り替えることができます。

この場合は、必ずリモコンと本体に特殊コードラベルを貼ってください。(メンテナンス性向上のため)

特殊コードラベルの品番は、[特殊コードラベル一覧](#)をご確認ください。

2. 連立トイレの配置例

正 規 品	(タイ 1 プ) 1	(タイ 2 プ) 2	正 規 品	(タイ 1 プ) 1	(タイ 2 プ) 2
(タイ 3 プ) 3	(タイ 4 プ) 4	(タイ 5 プ) 5	(タイ 3 プ) 3	(タイ 4 プ) 4	(タイ 5 プ) 5

3. 連立トイレ対応方法

<<本体側の設定方法>>

※設定変更が下記説明書で行えない場合は、**TOTOメンテナンス**へご依頼下さい。(有償)
 ※作業途中で失敗した場合は、もう一度最初からやり直してください。

リモコン特殊コード切り替え方法(ウォシュレット本体側)

◆途中で失敗した場合は、もう一度最初からやり直してください。

手順 1

本体操作部の **運転入/切** を10秒以上押し続ける
 ⇒10秒後に全てのランプが**5秒間点灯**します。

本体表示部

● 運転
● 便座
● 節電

緑色点灯

■ 運転
■ 便座
■ 節電

橙色点灯

この間**5秒**

◀下図は例です▶

● 運転
● 便座
□ 節電

ランプが全点灯から一部点灯または点滅したら最初からやり直してください。

*品番により本体表示部が異なります

手順 2

運転入/切 を押したまま本体の全ランプが点灯(5秒間)すると、
すぐに **ビデ入/切** を5秒以上押す。

5秒後に手順3の設定コードのようにランプが点灯します。

手順 3

◆途中で失敗した場合は、もう一度最初からやり直してください。

運転入/切 を押したまま、おしり入/切 を押す。
 おしり入/切 を押す度に標準→特1→特2…特9→標準
 と設定が切り替わります。

本体表示部

●…緑点灯 ▲…橙点灯 ×…消灯

設定コード*	標準	特1	特2	特3	特4	特5	特6	特7	特8	特9
運転	●	×	●	×	●	×	●	●	×	●
便座	●	●	×	×	●	●	×	●	●	×
節電	●	●	●	●	×	×	×	▲	▲	▲

手順 4

◆手順1、2の操作で設定したコードを確認することができます。

運転入/切 から手を離れた時点で設定したコードになる。


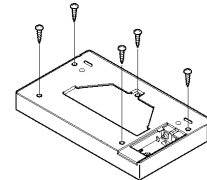
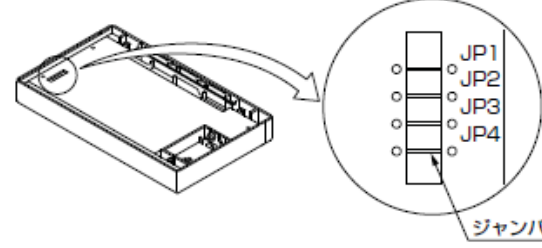

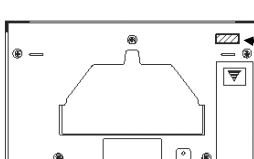
手順 5

ウォシュレット本体の裏面に切り替え後の特殊コードラベルを貼る。

コードラベル

※リモコン側の切替作業終了後、必ず**作動確認**を行ってください。

<<リモコン側の設定方法>>

手順	リモコン特殊コード切り替え方法(リモコン側)																																																							
1	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>乾電池のはずしかた</p>  <p>①リモコンハンガーからリモコンを取りはずす。 ②電池カバーを開けて、乾電池を取りはずす。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>①リモコンハンガーからリモコンを取りはずす。 ②電池カバーを開けて、乾電池を取りはずす。</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ご注意!! 電池を必ず抜いて作業を行ってください。 電池を抜かないと連立モードに切り替わりません。</p> </div> </div> </div>																																																							
2	 <p>リモコン裏面のねじ5本をプラスドライバーではずし、裏板を取りはずす。</p>																																																							
3	 <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ご注意!! ◎ジャンパー線の切断は、切りまちがえないように注意して行ってください。 ◎ジャンパー線の切りくずがリモコン内に入らないように注意してください。</p> </div> <p style="text-align: center;">◎: つながったまま ×: 切断</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>コード</th> <th>標準</th> <th>特1</th> <th>特2</th> <th>特3</th> <th>特4</th> <th>特5</th> <th>特6</th> <th>特7</th> <th>特8</th> <th>特9</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ジャンパ線 JP1</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>◎</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>JP2</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>JP3</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>JP4</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table> <p>リモコン基板上的の4本のジャンパー線を、左表にしたがってニッパで切断することにより特1～特9へ切り替える。</p>	コード	標準	特1	特2	特3	特4	特5	特6	特7	特8	特9	ジャンパ線 JP1	◎	×	◎	×	◎	×	◎	×	◎	×	JP2	◎	◎	×	×	◎	◎	×	×	◎	◎	JP3	◎	◎	◎	◎	×	×	×	×	◎	◎	JP4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	×
コード	標準	特1	特2	特3	特4	特5	特6	特7	特8	特9																																														
ジャンパ線 JP1	◎	×	◎	×	◎	×	◎	×	◎	×																																														
JP2	◎	◎	×	×	◎	◎	×	×	◎	◎																																														
JP3	◎	◎	◎	◎	×	×	×	×	◎	◎																																														
JP4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	×																																														
4	 <p>①裏板をねじでリモコンに取り付ける。 ②リモコンに乾電池を入れてリモコンハンガーに取り付けてください。 ◎乾電池の入れかたは、手順1を参照してください。</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ご注意!! 裏板を取り付ける前に、電池端子が正しく取り付けられていることを確認してください。</p> </div>																																																							
5	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>例 リモコンコード特1 このリモコンは特1タイプの本体のみを操作できます。</p> </div> <p>切り替え後の特殊コードラベルを貼る。 ◎リモコンの裏面に貼付してください。</p>																																																							

※1 ウォンシュレット本体側の切替作業終了後、必ず作動確認を行ってください。
 ※2 基板内部を扱う作業になりますので、静電気及び取り扱いには十分ご注意ください。
 (内部精密機器を破壊するおそれがあります。)